

目次/ 編集方針	トップ メッセージ	グループ概要	ニコンのCSR	事業を通じた 社会への貢献	環境問題 への対応	CSRの 基盤強化	企業市民活動
-------------	--------------	--------	---------	------------------	--------------	--------------	--------

> [トップメッセージ](#)



社会に貢献し続ける企業をめざして

代表取締役 兼 社長執行役員

馬立稔和

ニコンの事業と社会

2020年3月期は、持続的な企業価値向上を実現するための「成長基盤構築」をめざす中期経営計画（2020年3月期～2022年3月期）の初年度でした。計画した諸施策を進める中で新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、私たちの事業も大きな影響を受けています。

そうした状況下、ニコンではグループ従業員とその家族、お取引先で働く方々、お客様などの安全と健康を最優先に掲げ、日々変化する状況に機動的に対応しながら事業を展開しています。

このような影響を受ける中でも、中長期的視点に立つと、ニコンが中期経営計画を策定する際に描いた未来は変わっていないどころか、むしろその到来が一層早まっていると私は実感しています。

例えば、ネットワークの高度化・高速化のもとで、画像による認識・分析システムや人と協調・協働するロボットなどの需要が高まっており、それはリモートでの活動の増加や人と人との直接的な接触の削減をもたらすものでもあります。当社は長期成長領域の一つである「ビジョンシステム／ロボット」において、それら要求の実現に大きく寄与する製品・サービスを提供し、私たちの生活や産業をより

便利で効率的にする未来をめざしています。

いま求められる新しい生活スタイルや働き方は、私たちが想定した未来の早急な実現を社会に迫るものだと感じています。この認識のもと、長期成長領域の各事業の創出に全力で取り組んでいきます。

中期CSR計画に基づく活動

社会全般に目を向けると、社会課題の深刻度が増し、SDGs(持続可能な開発目標)や、パリ協定における目標の達成に向けて世界中のすべての主体が責任を自覚し、協力

目次/ 編集方針	トップ メッセージ	グループ概要	ニコンのCSR	事業を通じた 社会への貢献	環境問題 への対応	CSRの 基盤強化	企業市民活動
-------------	----------------------	--------	---------	------------------	--------------	--------------	--------

> [トップメッセージ](#)

することがますます必要となっています。企業においても、CSR重視の考えをより強固にし、長期的な展望のもと計画的に自社や社会の課題に取り組むことが不可欠です。

ニコングループでは、中期CSR計画に掲げたCSR重点課題に対する目標を着実に達成することが重要と考えています。

中期CSR計画の2020年3月期の主な進捗として、2019年4月に策定した「ニコン人権方針」をグループ内に周知し適切な行動をとるよう、役員および従業員への教育を、ニコングループ全社で実施したことが挙げられます。社会動向を踏まえ、事業における人権課題の把握とその改善・解決に引き続き努めていきます。

また、サプライチェーン管理体制の強化に向けては、調達先情報の一元管理システムを導入しました。これは、CSR調達を進めるとともに、サプライチェーンの事業継続マネジメント(BCM)を強化するものです。

さらに、ガバナンスにおいては、指名審議委員会を設置し、後継者育成計画や社長執行役員および取締役の選解任基準を改定しました。取締役会の多様性拡大にも注力し、2020年6月に、新たに社外取締役2名(うち1名女性)が就任し、社外取締役比率が増加しています。

気候変動対策については、金融安定理事会(FSB)によって設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」に賛同しており、長期的視点に立った野心的な取り組みが必要という認識のもと、今年度、ニコン環境長

期ビジョンの柱のひとつを「低炭素社会の実現」から「脱炭素社会の実現」へと改定しました。2019年11月にSBT(Science Based Targets)認定を取得した温室効果ガス削減目標の達成に向けて、再生可能エネルギーの積極的導入なども視野に入れ、取り組みをより一層強化していく考えです。

また、これまで培った技術力や戦略的アライアンスなどにより新しい製品・サービスを積極的に提供し、新たに注力するテーマとして掲げている材料加工事業をはじめ既存事業においても脱炭素社会の実現に貢献していきます。

経営に重要な3つの視点

私は社長就任以来、自分自身の経営の重点を「イノベーション」、「プロフィットビリティ」、「サステナビリティ」の3つに置き、ニコングループの従業員と直接対話する「社長タウンホールミーティング」などを通じて、従業員に伝えてきました。

ニコンの歴史を振り返っても明らかな通り、私たちはイノベーションにより、製品やサービスを産みだし、新しい価値を社会に提供してきました。また企業である以上、利益を出すことは命題です。人材や資本を有効に活用し、製品やサービスにより利益を得て、次のイノベーションを生み出す備えが必要です。そして、サステナビリティは、企業が社会と共存し続けるための重要な条件であり、イノベーションを生む源でもあります。

アフターコロナの社会において、新しい価値観に基づく

課題へのソリューションを生み出していかなければならない今、サステナビリティの考え方は、私たちがめざす未来、乗り越えるべき課題、そのためのアクションなどを考える思考の筋道を明確にしてくれます。

ニコングループは、全従業員が一丸となって、現行の中期経営計画および中期CSR計画を実行することで、イノベーション、プロフィットビリティ、サステナビリティを経営の重点として追求していきます。そして、ニコンならではの価値提供により、持続可能な社会に貢献し、社会に価値ある存在であり続ける企業をめざします。

ステークホルダーの皆様からのご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。